

〔曲名〕 L'Uccello impensierito

怯える小鳥

〔曲種〕 polka scherzosa

諧謔（かいぎやく）風ポルカ

〔作曲者〕 G.Filippa

ジュゼッペ フィリッパ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作者は今世紀初頭のイタリア吹奏楽作曲家。

父子ともに同じ畑で父ジュゼッペには「ラ・ペザレーゼ」（ペザロ気質）、「滅びし国」、「四旬節謝肉祭」があり

いずれも既に同志社大学マンドリンクラブで公演された。

この他にも「村祭」、「海」等がありマンドリンオーケストラ向の曲が多い。

息子ヴィットリオにも「町の祭典」、「山国の婚礼」いずれも上記で公演されたが手法がよく似ている。

本曲怯える小鳥はチリチチチと副題がありイタリアのハンターたちに贈られた戯作風のポルカ。

ポルカはイタリアの物識りNN氏によると1835年ボヘミアのエルベルテニッツという所の一百姓娘によって創始された

（一説には同地の料理女）と云われるが直ちにヨーロッパ中のサロンに広まり

19世紀末まで熱狂的にもてはやされた速い二拍子の舞曲でリズムに特徴がある。

スメタナ、ドヴォルザーク等によって芸術音楽の分野にも採り入れられたが、

イタリア初期のマンドリン曲にも頻（すこぶ）る多い。

残念ながら余り佳曲が見当たらないが本曲は却々面白い。

終始小鳥の怯える鳴き声を模したところはマンドリンにうってつけで、

指板の上やブリッジ寄りで表情豊かに演奏すれば吹奏楽などよりずっとラシクなる筈である。

打楽器はトライアングルと小太鼓は欠かしたくない。

終りの方で総譜の頁を儉約してあるがパート譜はDCのみとしたい。

1970年 5月20日発行

イタリアマンドリン百曲選第5集より